

リーグ戦における審判員の帯同について

日頃より、十勝少年サッカー連盟の運営する大会に多大なるご尽力をいただき誠にありがとうございます。

さて、連盟では各種大会を運営しておりますが、冬期間のフットサル大会のうち、全道大会の予選に関わるものを除いては「4級以上の有資格者」の審判を帯同の条件として大会に参加していただいております。

しかしながら、11月末に行われました全十勝フットサルリーグなどを見ておりますと、講習会で資格を取得したままの実践経験のない方が帯同されたり、経験が全くない審判の方がお一人でこられたりと、運営に少なからず影響のある状況が見受けられました。

確かに、審判員は実践を経て経験を積み、技術が向上するものとして「経験の場として」リーグ戦を利用いただきたいということは重ねて説明してきておりますが、全くの経験がない方、実践がはじめてという方は、それなりの対処、例えば経験者で指導できる方がついてこられる、または審判委員会のメンバーに依頼してアドバイスを依頼する、などは最低限のマナーだと思われます。

各チームから1名ずつ帯同していただいた審判員、このように「全く実践は始めて」という方同士二人となってしまうと、結果的にゲームの進行もままならず、またファウルなどを全く適用しないことで、選手が危険にさらされてしまうという事象も発生してしまいます。審判員はゲームの進行はもとより、重要なのは選手が安全にゲームに参加できるようサポートすることが大事だと思います。

大会参加の要件として各チームの判断に一任してきた審判員の帯同ではありますが、今一度、チーム内であり方を見直していただき、実戦経験のない審判員を育てるために自チームの練習時間や自主練習の時間を審判員指導の時間に充てるなど、ご尽力いただいた上で、帯同させていただけるようお願いいたします。

また、大会運営にあたっては十勝少年サッカー連盟の役員、審判委員が会場に必ず数名いることと思います。ゲーム進行にあたって不安がある方やアドバイスがほしいという方は、プログラムとして講習会を組んでいなくても指導することは全く問題ありませんので、積極的にお声がけいただければと思います。

子どもたちがより良い環境で楽しくプレーができるよう、また見守る保護者や関係者のみなさんが安心して見守ることのできる環境づくりのため、一緒に努力していきましょう。